ICTニュース

大阪府済生会中津病院　感染対策チーム

2018年4月号
Vol.56
（2018年4月5日発行）

感染管理室が新体制となりました！

新年度となり、感染管理室では、専従の感染管理認定看護師（CNIC）が交代となりました。また、平成30年度の診療報酬改訂を受けて、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）が、正式に感染対策委員会（ICC）の下部組織として設置され、新たに感染制御認定薬剤師が専従者として加わりました。新メンバーで新体制を築き、新しい気持ちでスタートします。今後ともICT・ASTの活動にご協力よろしくお願いします。（次号でAST活動のご紹介をします。）

【平成30年度感染対策チーム（ICT）メンバー紹介】

職種	ICTメンバー
医師	安井良則（臨床教育部・感染管理室長） 田中敦雄（腎臓内科・感染症専門医） 寺西敬（呼吸器内科・ICD）・熊谷雄介（小児科・ICD） 藤谷洋太郎（血液内科）・大和謙二（小児科） 戸田常紀（看護学校・オブザーバー）
看護師	川口尚子（感染管理室）・堀越敦子（手術部） 西紋悠子（北10階病棟）・上田るみ子（外来）
薬剤師	岡千恵・三木芳晃・塚本啓介・梅林良英・山口みなみ・渡邉優子
臨床検査技師	稲村真由美・香西真莉

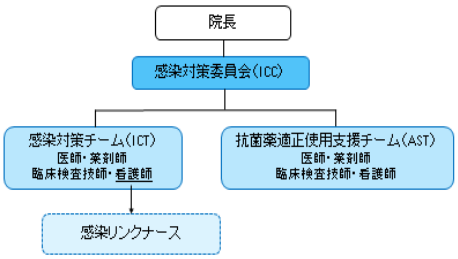
感染管理室新メンバー

新入職員研修のひとコマ

研修はまだまだ続きます…

これからのICTとAST及びロタウイルス感染症について

【新感染管理システム】



大きかったインフルエンザの流行も漸く落ち着いて、2018年度が始まりました。感染管理室では、これまでICTの専従としてその立ち上げから10年間に渡って頑張ってくれていた感染管理認定看護師（CNIC）が交代となります。これによって感染対策に係る優秀な人材を更に育成していくと共に、ICTの体制をより強固で継続的なものとしていきたいと考えております。次に前号でも報告致しました通り、これまで2年間活動してきた**抗菌薬適正使用支援チーム（AST）には新たに薬剤師の専従者**を置いて、正式な感染管理室の下部組織として新たにスタートします。

以上のように、感染管理室は新年度より体制を一新させ、病院のみならず中津医療センター全体の感染対策の向上に資すると共に、感染対策の面での地域への貢献に繋げて行くことができれば幸甚です。今後とも感染管理室が運営していくICT並びにASTの活動にご協力頂きますようお願いします。

次に、4月の感染症のトピックスとしてはロタウイルス感染症を紹介します。乳幼児を中心とした感染症であり、**発熱と嘔吐・下痢等の消化器症状**を主症状とします。初感染時が最も重症化しやすく、数年前までは日本国内でも年間25,000～30,000人の児がロタウイルス感染症によって入院していると言われていました。**感染経路は接触感染、糞口感染**で、極めて感染力が強く、ウイルスは環境中でも安定していて1か月以上活性を保っていることも珍しくはありませんから、感染対策はノロウイルスよりも更に困難です。現在国内では2種類のロタウイルスワクチンが認可されていますが、定期接種となるにはまだしばらく時間がかかりそうです。図は2013年第42週から始まった全国約500箇所の基幹病院定点によるロタウイルス感染症のサーベイランスの週別の報告数の推移を示しています。例年と同様、3月に入って報告数が急増してきていることがわかります。近年、ロタウイルス感染症の流行のピークは4月後半から5月頃となる場合が多く、患者数はまだこれから増加していくものと思われます。特に乳児・幼児に対する医療、保育等に関わっている方々は、これからのロタウイルス感染症の流行情報にご注意ください。

（感染管理室　安井良則）

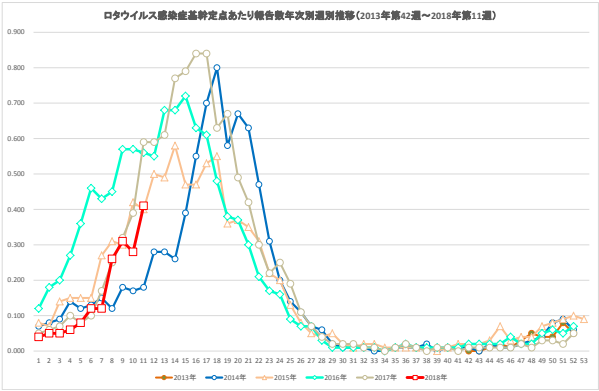


図. ロタウイルス感染症の基幹科定点当たり報告数の年次別週別推移（2013年第42週～2018年第11週；感染症発生動向調査より）